# さい帯血バンクNOW

第58号

2011年3月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：中林正雄（会長）
〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-3　日本赤十字社西館５階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417　http://www.j-cord.gr.jp/


# 重複対象者のさい帯血はバンクへ
# エコチル調査で環境省と調整

環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の協力医療機関がさい帯血バンクの採取施設と３割程度重複し、さい帯血の採取数が減少する恐れがあり、厚労大臣に見直しを求める要望書を提出したことは本誌前号（57号）でお知らせしたとおりです。

その後、環境省と実際にエコチル調査を実施する全国各地のユニットセンターと各さい帯血バンクの個別の話し合いの場が持たれました。また、白血病等の患者さんを支援しているNPO全国骨髄バンク推進連絡協議会（大谷貴子会長）から環境大臣、厚労大臣にさい帯血バンク事業への影響回避を求める要望書が出され、今年に入って日本造血細胞移植学会（今村雅寛理事長）から再調整を求め、ネットワークの要望書を支持する声明文が出されました。

１月22日に行われた日本さい帯血バンクネットワーク事業運営委員会において環境省の担当者出席のもと話し合いが行われました。そこではエコチル調査の調査方針に変わりはありませんでしたが、エコチル調査とさい帯血バンクの双方に協力の意思のある妊婦さんについては、エコチル調査ではさい帯血を採取を行わないこととし、さい帯血バンクへの影響が生じると考えられる場合は、当該医療機関と協議の上、エコチル調査協力医療機関から除外することを考慮するということを確認しました。

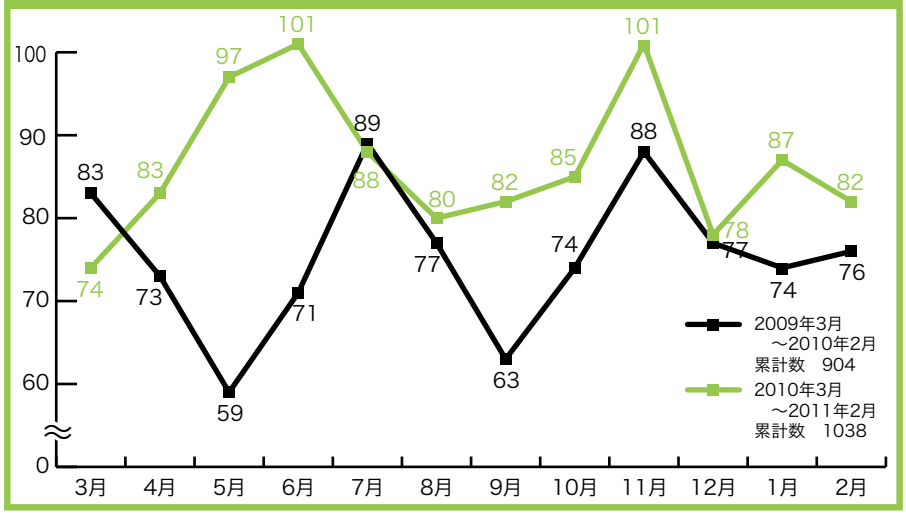
## 全国大会、今年は広島で

今年の「さい帯血バンク推進全国大会」は下記の日程で広島にて開催することが決まりました。内容等の詳細については、追ってお知らせします。

**2011年9月17日（土）14時から**
会場：八丁堀シャンテ
　　広島県広島市中区上八丁堀8-28　TEL:082-223-2111

## 非血縁間さい帯血移植状況（2011年3月1日現在の速報値）

**移植数（累計）7142　公開数 34262**




※複数さい帯血移植数を換算しています。

## 影響調査の実施で今後も注視

そして、環境省としてエコチル調査時にさい帯血バンクへの影響調査を同時に実施し、対象採取施設でエコチル調査に参加希望のすべての妊婦さんにさい帯血バンクへの提供意思について説明を受けたかどうかエコチル調査サイドが実施するということで、エコチル調査の実施に同意しました。

日本さい帯血バンクネットワークも、エコチル調査による影響を多面的に調査をし、今後も環境省と話し合いを継続して、状況によっては再度の検討と協議を行っていき、移植を望む患者さんに不安を与えないよう、努力してまいります。

# 4月から神奈川臍帯血バンクは東京日赤に統合

神奈川臍帯血バンクは発足して今年で15年が経ちました。この間、さい帯血バンクを利用した移植は、関係者の努力と理解でほぼ当たり前の治療法として定着しました。必要な時にいつでも利用できるというさい帯血の利点を生かすには、十分な数のさい帯血が安全にかつ効率的に供給できる確固たる体制の構築が必要です。これを実現するには財政面、技術面など克服すべき問題点も発生します。このような中、神奈川臍帯血バンクの運営委員会で将来あるべき姿について話し合ってきました。その基礎となったのは、日本さい帯血バンクネットワークの『将来へ向けての提言』です。さい帯血バンク事業の見直し検討を行う中で必ず提案される『各バンクの統合』は、総論賛成であってもその実現は難しそうな気配でした。私たちは研究事業から公的事業となったさい帯血バンクを「任意団体として継続する是非」という、そもそも論から種々話し合いを行いました。また、バンクが賃借している病院研究棟の改修工事の影響も考慮しなければなりませんでした。結論として、神奈川臍帯血バンクは平成23年４月を目処に、全ての事業を東京都赤十字血液センター臍帯血バンク（日赤東京バンク）に事業統合することを決定しました。これまでに保存した供給可能な保存さい帯血は全て日赤東京に移管します。既に平成22年９月末で、神奈川臍帯血バンクでの調整保存作業は終了しました。しかし、神奈川の採取施設で採取されたさい帯血は日赤東京に移送され調整保存が継続されているため、保存されるさい帯血数が減少することはありません。さい帯血の申し込みと提供業務は、この４月から日赤東京バンクが行い、統合されたさい帯血も提供します。この作業にあたっては、厚労省の後押し、ネットワーク会長や将来構想検討会委員長の助言があったことは言うまでもありません。おりしも全国の日赤系さい帯血バンクは、高度な品質のさい帯血を提供する体制作りに取り組むことになったと聞いています。おそらく、神奈川臍帯血バンクの統合がこの取り組みの礎になることでしょう。神奈川臍帯血バンクを支えて下さった多くの方々に感謝を申し上げますとともに、日本のさい帯血バンク事業の新たな一歩を引き続き支援していただきたいと思います。

**●神奈川臍帯血バンクの沿革**

神奈川臍帯血バンクは設立者の西平浩一（神奈川県立こども医療センター部長・当時）のもとに有志が集まり1995年に任意団体として設立しました。３つの施設がそれぞれさい帯血を保存、提供し、事務局をこども医療センターに置く形です。骨髄移植全盛の中で、凍結したさい帯血を安定的に供給するための研究事業という色彩が強いものでした。2000年からは全ての事業を昭和大学藤が丘病院に統合し現在に至ります。所在地はみなと横浜ですが、海からはずっと離れた私鉄沿線の住宅地の中に存在します。事務局や保存施設は病院研究棟の一室を賃借し、事業は病院とは全く別会計の独立した形式で運営してきました。業務の担当者は、検査技師４名、事務担当者が１名で全て専任パート職員ですが、初代会長を含め組織に名前を連ねるメンバーは全て兼任となっています。

さい帯血検査の大部分や日常の運営、経理などは病院と提携を結び運営をしているので病院とは表裏一体の関係です。一方、移植にとって重要なHLA検査は、当初は神奈川県赤十字血液センターの研究事業の一つとして協力していただきました。財政的には種々の経営努力の結果、単年度でみると赤字体質からは脱しています。採取は、８つの産科施設で実施され神奈川臍帯血バンクを支えています。現在のさい帯血公開数は1580、日本で最初のさい帯血バンクからの移植症例をはじめとして、現在までに245件のさい帯血が提供されてきました。（磯山）

NIPRO

すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたいー。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

NIPRO
ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

# 事業評価委員が見たさい帯血バンク

## 2つのNPO法人さい帯血バンク

### 兵庫さい帯血バンク

当初、兵庫医科大学、関西医科大学、奈良県立医科大学の３施設から構成される近畿臍帯血バンクとしてスタートしたが、兵庫医科大学が独立し、さらに2000年９月にNPOとして法人化した歴史を持つ。現地調査をして感じることの第一は、最高意思決定機関が他の多くのバンクと異なり、理事会や運営委員会ではなく総会であることと、理事の中にロータリークラブ、ライオンズクラブ、ソロプチミスト、法曹界、看護連盟、新聞社、ボランティア団体、監査法人の方など、医療関係者以外が名を連ねていることである。外向きに広がった活動、オープンな活動、という雰囲気がする。経理部門を銀行関係の方が担当されていたり、NPOであるからこそ専門家の参画も得られるのだと感じる。多くのボランティアの参加（＝写真）も得て、さい帯血を産科病院からバンクまで搬送しているため、16施設と全国で一番多くの産科病院と契約ができている。街頭広報活動、チャリティーゴルフ、学校行事などに積極的に参加して、さい帯血バンクの名前と活動を紹介し認知度を高めることができていて素晴らしい。催し物で記念に配るグッズもよく選ばれたものが多く、現地調査の記念としてもらってきたことを思い出す。他のバンクでは事務局および調製保存スタッフが毎年同じ顔ぶれであることが殆どで顔見知りになっていることが多いが、このバンクではニューフェースと会うチャンスが多い。若干不安を覚えることもあったが、きちんと文書管理や調製保存技術はバトンタッチされていて、業務は安定している。

### 宮城さい帯血バンク

財政事情に心配材料があると報道されたこともあるが、それはさておき、完璧な細胞プロセシングユニット内でさい帯血の調製保存が実施されているバンクとして、現地調査に訪れる度に感心させられる。クリーンルーム内の温度・湿度・浮遊粒子数など、また炭酸ガス培養器の温度・湿度・炭酸ガス濃度などをモニターするパソコン画面があり、それを見れば、問題があるか無いかが一目瞭然である。完全防塵服を着たスタッフを見ると、まさに半導体メーカーの工場か宇宙工学研究所に来たような錯覚を覚えてしまう。高額な設備であり、文部科学省が推進する研究用幹細胞バンク設置に対し大規模な国家予算が決定したタイミングと、このバンクの発足時点が合ったことが幸いしている。ただしネットワーク内のバンク全体にはこのプロセシングユニット水準を求めることは難しい。設備投資と維持に相当な資金が必要となるだろう。

さてネットワーク内での事業開始が平成14年であり、全国のさい帯血バンクの中で２番目に新しいバンクであるが、NPO法人として経営されているため、毎年「親と子のふれあいチャリティコンサート」（＝写真）が開催されて社会活動にも熱心である。実際のコンサートには参加したことはないが、バンクホームページに紹介される記事からは、親子の絆を感じ、親子で楽しめる企画であることに間違いなさそうである。（池淵）

**■善意のお気持ちに感謝します■**

| | | |
|---|---|---|
| 京都府 | ホセ・カレーラスファンクラブ白血病基金様 | 500,000円 |
| 兵庫県 | 株式会社フェリシモ　フェリシモ基金事務局様 | 155,505円 |
| 千葉県 | 星 義雄・佳子様 | 20,000円 |
| 大阪府 | 福田 博行様 | 20,000円 |
| 千葉県 | 星 智晴様 | 10,000円 |
| 東京都 | 匿名希望 | 10,000円 |
| 静岡県 | 豊田 龍二様 | 10,000円 |
| 東京都 | 堀北 恵理様 | 10,000円 |
| 東京都 | 石川 恵子様 | 10,000円 |
| 埼玉県 | 大寺 信行様 | 6,000円 |
| 岩手県 | 遠藤 律枝様 | 2,000円 |
| | みやたけ様 | 20,000円 |
| | カワノノブユキ様 | 3,000円 |

〈寄付受け付け専用口座〉

●郵便局からの振り込み

００１８０－９－５７３９０

●他の金融機関からの振り込み

金融機関名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：９９００

支店番号：０１９（銀行のATMから当ネットワークへ寄付金を送金する場合は支店名は『ゼロイチキュウ』と入力してください。）

預金種目：当座

口座番号：００５７３９０

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク

移植病院 訪問

## ⑫浜の町病院（福岡）

# チーム医療で質の高い看護を

**海に近いからついた名前が浜の町病院、有名な博多の繁華街・天神にも近く、あの長浜ラーメンの屋台街も歩いてすぐのところ、国家公務員共済組合連合会浜の町病院はそんなロケーションにあります。ここは年間で60例以上の造血細胞移植を実施している日本で屈指の移植病院です。**

## 20年以上の移植経験

浜の町病院の開設は1952年、1958年に血液内科が置かれ、先駆的に1990年から始まった造血幹細胞移植は、これまでに累計で700例以上を行いました。現在では17床の無菌室を用意して移植に臨んでいます。ここ数年では移植全体の８割の年間50例ほどが同種移植で、さらにその８割が非血縁者間移植であって、さい帯血移植はコンスタントに20例近くが毎年実施されている移植に積極的な病院です。

血液内科は別館の２階と３階に52床を構えていますが、他科のベッドも借りて常時60～70人の入院患者を抱えています。外来でも毎日３人平均の新患があって、患者さんは福岡を主に沖縄を含む九州のほぼ全域におよぶといいます。そんな血液内科はいい意味でのまとまりのあるファミリーなスタッフで医療に当たっているように外からは見えます。実際に各科の敷居も低く、全病院の協力し合う雰囲気がここまでの実績を培ってきたようです。

血液内科のある別館

## 臨床心理士が常勤

チーム医療としてまずとり組んだのは患者家族の心理的サポートだそうです。生と死を意識させる白血病などの血液疾患者が移植という過酷な治療に臨む際におこる様々なメンタルな問題、それに故郷を離れて来る患者さんが多いという事情もあったのかもしれません。移植病院で常勤の臨床心理士は日本ではおそらく吉住朋子さんだけかもしれません。吉住さんは血液内科病棟を中心に外来や他の病棟もまわり、患者さんがかかえる心配事や心の壁を乗り越えるために努力されています。

## 多くの認定看護師が

がん看護専門看護師の野口玉枝さんも医師ではフォローしきれない患者さんの心の葛藤を支えています。そのほか日本看護協会の認定看護師資格を持つ看護師が活躍しています。皮膚排泄ケア認定看護師の堺美季さんは移植後にGVHDで苦しむ患者さんにとっては強い味方です。感染管理認定看護師の古賀暁子さんは免疫が低下した患者さんには致命的になる感染症には欠かせない存在です。他にも様々な分野の専門的な認定看護師のみなさんがチーム医療で浜の町病院の造血細胞移植を支えています。

新病院には45床の無菌室が

## これからの浜の町

「移植が始まったのは血液内科がある別館が建った1990年、だいぶ古くなりました。６年前の福岡県西方沖地震、博多湾の入口にある玄海島が大きな被害を受けた時にはここもかなり被害がありました」と語る血液内科の衛藤徹也部長は「最近は数年前と比べて目に見える形で患者さんの高齢化が進んでびっくりしています。うちでも患者さんの全身状態が良ければ70歳代でも移植を行うようになりました」といいます。その浜の町病院は移転計画が進行中で、より海に近いところに新築する予定があって、2013年には45床の無菌病棟が完成し、さらに多くの移植が期待できる病院に成長しそうです。